

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 2月 7日

事業所名 きらり倉敷

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|-------------------------------|--|----|---------------------------|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | 活動内容に応じて活動エリアを設けている。 | 集団活動エリアが狭い。児同士の一定の距離が保てるようエリアを広くする。 |
| | 2 職員の配置数は適切である | ○ | | 法令上での基準を満たして運営している。 | |
| | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | | ○ | | 床はフラットな状態であるが、衝立や柵で空間を分けている為年齢が小さい方や歩行が不安定な方にとっては危険である。誰もが生活しやすい空間を検討していく。 |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | 職員面談を年3回実施。目標の設定、目標の進捗確認、目標に対する評価等目標管理活動のプロセスに則り行っている。 | |
| | 5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | 保護者の方から頂いた意見を職員間で共有し改善方法を検討し実行している。第三者評価を定期的に受審し改善に繋げている。 | 避難訓練実施状況、個人情報の取り扱いについて、保護者の方に説明できていなかった為、保護者の方に分かりやすい方法でお伝えできるようにする。 |
| | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | 法人HPやWAMNETにて公表している。 | 利用して下さる方が安心してご利用できるよう、事業所に対する意見等を真摯に受け止め改善に努めていく。 |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | ○ | | 定期的に第三者評価を受審し改善に努めている。 | 頂いた意見や評価を受け止め、一つずつ改善する事で、サービスの向上に努めていく。 |
| 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 法人内研修・事業所内研修・外部研修に参加している。 | | |
| 適切な支援の提供 | 9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | 保護者の方の思いやご利用児の状況をより把握し、個別支援計画の立案、支援の実施、評価の個別支援計画プロセスに則り支援を行っていきけるよう努める。 |
| | 10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 太田ステージ、遠城寺、人との関わりレベルシート等を使用しアセスメントを行っている。 | 発達アセスメントだけではなく、生活環境や地域生活等多角的視点からアセスメントを行い利用児支援を行っていく。 |
| | 11 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 各自のねらいに応じた様々な活動を提供するようにしている。 | |
| | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 各自のねらいに応じた様々な活動を提供するようにしている。 | |
| | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | 季節に応じたレクリエーション活動を実施している。 | 楽しみながらねらいに取り組むことができる活動を今後も企画し実行していきたい。 |
| | 14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 集団活動は、集団の中での振る舞いを学べる活動を提供するように工夫している。 | |
| | 15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 朝礼にて毎日確認している。 | |
| | 16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 終礼にて毎日行っている。当日不在の職員には終礼ノートを活用して情報共有している。 | |

| | | | | | | |
|--------------|----|---|---|---|---|---|
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 電子媒体を活用し記録をとっている。また電子媒体上で情報の共有も行っている。 | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | 6か月ごとにモニタリングし、計画の見直しを図っている。 | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | ○ | | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 基本は児発管が参画している。必要に応じて直接支援職員も参画している。 | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | 必要に応じて学校と連絡を取り合っている。 | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | | | 現在は医療的ケア児の受入実績はないが、受入の際は、関係機関との連携を図る。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | 状況表や移行会議にて、情報共有等を行っている。 | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | 状況表や移行会議にて、情報共有等を行っている。 | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | 同法人内に児発センターや発達障害者支援センターがある為、適宜連携を取り合っている。 | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | ○ | | 児童クラブや児童館との交流はないが、地域の子ども達も含めた公益活動を実施している。今後も継続し障害の有無に関わらず地域の子ども達と一緒に育ちあえる活動を企画していく。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | | ○ | 会議には出席していない。参加者に内容の確認を行っている。 | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | 電子媒体を活用したり、保護者懇談を実施し共通理解を図っている。 | |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | 今年度はコロナ禍により、定期的に開催できていない。 | どんな状況であっても必要な方が参加できる研修方法を検討し実行していく。 |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | | ○ | 事業所単位での保護者会は行っていない。 | 保護者が集える場を企画していきたい。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | | |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | 電子媒体を活用し発信している。 | |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | | | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | 懇談・電子媒体・電話・筆談等様々な方法を活用し情報伝達を行っている。 | |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|--|---|---|
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | 互近助パントリーのサポーターとして協力し、地域の方に頼られる事業所になることを目指し事業運営を行っている。 | コロナ禍での顔の見える関係作りについて実施・参加していただける形を考えていく。 |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | 新型コロナウイルス感染症対応のBCPも作成している。 | |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | 法人一斉避難訓練も定期的に行っている。 | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | 毎年職員全員対象に研修を実施している。互いの行動や振る舞いを確認している。 | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | 今現在は身体拘束を行っていないが、必要な場合は身体拘束以外で対応できる方法はないか検討し、やむを得ない場合は、プロセスに則り行っていく | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | | | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | 事業所で起きた事は職員間で共有し、改善方法を検討している。 | |